国語科学習指導案

指導者　原田　綾華
山本　梨乃
井上　歩

1　日　時　令和２年　11 月　13 日（金）　第６校時（14:10～14:55）
2　学　年　第２学年　１組　男子 15 人　女子 14 人　計 29 人
3　単　元　主語とじゅつ語
4　単元について

単元について	本単元は，学習指導要領「知識及び技能」（１）カ「文の中における主語と述語との関係に気付くこと。」を受けて設定されたものである。 児童は，第１学年までに，助詞の「は」や「何が，どうする（どうした）。」という簡単な文を作ることについて学習してきている。これらを受けて，主語と述語を適切に対応させることができるようになるとともに，主語と述語が適切な係り受けの関係となっていることが，伝えたいことを正確に相手に伝える上で重要であることに気付くことができるようにすることが主なねらいである。

児童の実態

①レディネステストの結果

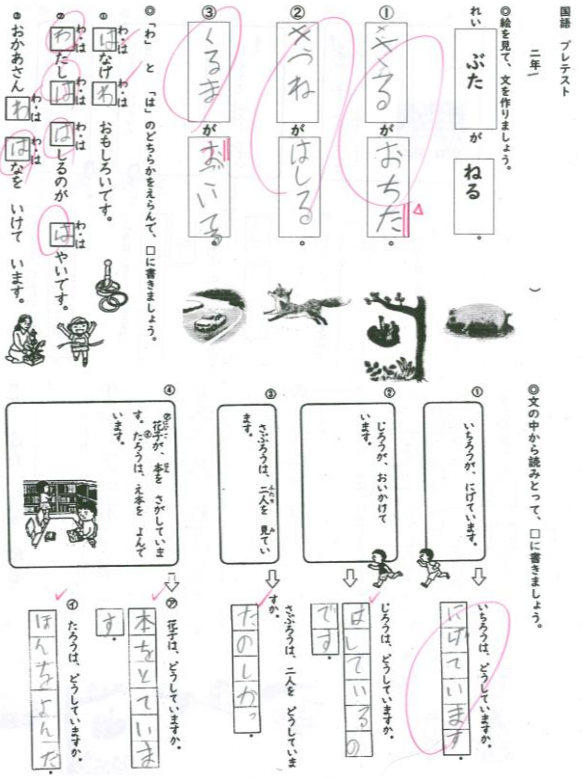
項目	正答者（人）	誤答の様子
絵を見て簡単な文を作る問題	27/29	「おちる」が「おちた」になっている。
「は」と「わ」を使い分ける問題	20/29	「はな」が「わな」になっている。
文の中から述語を読み取る問題	14/29	修飾語を追加して抜き出し，述語だけを抜き出すことができていない。

②対象児童の実態と要因

対象児童のレディネスの結果は右の通りである。

文を作る問題では，「おちる」と現在形で答える問題で，過去形の「おちた」を書いたり，「うごく」を「おごいてる」と書き間違えたりした。「わ」と「は」を使い分ける問題では，助詞の「は」を「わ」と誤答していた。また，文の中から述語を読み取る問題では，文の中に出てくる言葉を使って解答することができておらず，問題文の状況から自分で考えた言葉を用いたり，修飾語と合わせて文を書き替えたりしていた。

つまずきの要因としては，まず，助詞の「は」の使い方を正しく理解していないことが考えられる。また，文の中から必要な情報を読み取り，文の中に書かれていることを抜き出して解答することができないことが考えられる。普段の生活においても，会話は問題なくできるが，書くことは苦手で，促音や撥音が抜けたり，自分で考えて書くことができなかったりする。



指導にあたって

指導に当たっては以下の３点について留意する。

① 主語を見つける際，助詞の「は」や「が」を意識して見つけることができるよう，主語と共に「は」や「が」を赤丸で囲ませる。
② 「主語」の横には赤線，「述語」の横には青線を引かせることを統一して指導することで，主語と述語を明確にする。
③ 毎時間の授業後に，本時学習した内容を使った文を書く活動を取り入れることで，書くことへの抵抗感を緩和するとともに，学習内容の定着をはかることができるようにする。

５　単元の目標

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
・文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。 ・主語と述語を適切に用いて，文を作ることができる。		学習課題に沿って，様々な文の主語と述語の関係を進んで確かめようとしている。

６　単元の指導計画と評価規準　（全３時間）

時	学習内容	知・理	思･判･表	態度	評価規準	評価方法
1	主語と述語について知り，簡単な文の中から見つける。	○			主語と述語について理解し，簡単な文の中から見つけることができている。	発言 ノート
2	３語以上の文の中から主語と述語を見つける。	○			修飾語が入った３語以上の文の中から主語と述語を見つけることができている。	発言 ノート
3	主語と述語を適切に用いて，長い文を作る。	○		○	・主語と述語を適切に用いて，３語以上の文を作ることができている。 ・学習課題に沿って，様々な文の主語と述語の関係を進んで確かめようとしている。	発言 ノート